



## 金沢市立安江金箔工芸館



金沢市立安江金箔工芸館は、金沢駅の西口にほど近い北安江に位置し、昭和49年の開館以来長年親しまれてきました。建物の老朽化やバリアフリーへの対応等の観点からリニューアルが必要となり、平成22年10月、金沢市東山へ移転しました。東山の周辺地域は、江戸時代末に箔の「細工場」が建てられて多くの職人が製箔に勤しみ、その関係で現在も箔職人が多く住んでいます。歴史的にみて箔づくりと関係の深い土地です。

新しい工芸館は、鉄筋コンクリート造4階建(4階は塔屋なので実質的には3階建)です。1階には、外部からも様子をうかがうことができるオープンな空間である「多目的展示ホール」、図書コーナー、事務室などが設置されています。多目的展示ホールは学生や研修生などの作品展示や、館主催の音楽のコンサートなど、工芸作品の展示、文化の交流などに使用します。

2階は展示室と映像コーナーです。常設展示室では金箔の製造資料、年表、実際に使用されていた箔打機の展示をとおして、金沢で金箔が作られてきた歴史や、金箔の製造工程を紹介します。また、新しく開設した「おもしろ箔物館」のコーナーでは科学の目でみた金箔についての解説と、実際に手で触れてみることでできる資料を設置しています。金箔の材料である金の性質について、重さや厚さを実際に体験することで、子どもだけでなく大人にもわかり易く紹介します。職人のわざにより打ち上がった金箔を積層した、象徴的なコーナーの先では、映像コーナーで金箔製造に関する映像を視聴することができます。

企画展示室では当館所蔵作品を中心とした金や金箔に関する企画展を年に4~5回開催します。所蔵品は、金屏風にさまざまな情景をあらわした絵画をはじめ、漆工芸、金工、陶磁器、彫刻・人形、七宝・ガラス、金箔工芸品などがあります。

3階には、金沢の工芸に関する講演や講習を開催する研修室と、外部組



織である「金箔技術振興研究所」が設置されています。

館の事業としては、展示とあわせて教育普及活動として、金箔を用いた作品づくりの講座も開催していきたいと考えています。金箔の性質を学びつつ、金箔の持つ美しさを生かした作品を仕上げることを目的とします。

新しい工芸館では、建物の各所に金箔を用いています。館の外壁に刻まれている館名とその目地部分は、ステンレスの表面に金箔を貼っています。館内に入ると吹き抜けの天井が黄色い円状になっていますが、これは「へら絞り」でアルミ板を直径2.4メートルのパラボラアンテナの形に加工し、凸面に金箔を貼ったものです。これ以外にも金箔を用いた箇所がありますが、貼られている金箔は金の含有量が約96パーセントの「純金3号色」という金箔です(ちなみに、いま日本で一番多く製造されている金箔は、金の含有量が約94パーセントの純金4号色です)。

今回の移転にあたり、金箔と金沢との関係や、金箔を製造する道具と工程についてあらためて学ぶ機会を得ました。その際に「金箔については、明らかにされていないことがまだ多く残っている」ということを強く感じました。金箔の歴史に関しても、日本における金箔全般について記述するにはあまりにも範囲が広すぎるため、今回設置した年表は「金沢と金箔の歴史」としました。しかし、調べ始めると歴史の空白部分が多いことを実感しました。金箔に限らず、職人の世界は記述された資料があまり多く残っていません。口伝や徒弟制のなかでわざが伝承されてきたことが歴史資料の少ない理由のひとつであると思いますが、現時点で不明である多くの手柄について、今後少しずつ資料の収集を進めていきたいと思っています。

(金沢市立安江金箔工芸館学芸員 齋藤直子)



金沢銅器会社「象嵌花生」(明治時代)

口径13.2cm、胴径16.0cm、高39.3cm

銅製の素地に金・銀・赤銅・四分一などの金属で複雑な模様を象嵌し、鳳凰形の耳を付けた一対の花瓶です。

銅器会社は、廃藩置県により藩からの注文が途絶え貧窮していた金工職人の失業対策として、当時の金沢町総区長・長谷川準也らにより明治10年(1877)に設立されました。八代水野源六を中心に山尾次吉、山川孝次、米沢弘正など当時の加賀象嵌の優秀な技術を持つ職人が集められ、海外輸出用装飾品などを制作。明治15年(1882)金沢銅器会社と改称、国内の博覧会に出品し高い評価を受けましたが、明治25年(1892)ごろ解散しました。

石川県金沢市東山1-3-10

TEL:076-251-8950

■入館料：一般300円、団体(20名以上)250円、65歳以上200円、高校生以下無料

■開館時間：9:30~17:00(受付は16:30まで)

■休館日：展示替期間、年末年始

■交通：金沢駅より

・北陸鉄道バス(3番のりば)、JRバス(4、5番のりば)で「橋場町」下車 徒歩5分

・城下町金沢周遊バス(3番のりば)で「橋場町(交番前)」下車 徒歩5分

・金沢ふらっとバス[此花ルート](11番のりば)で「(9)彦三緑地」下車 徒歩8分



徐々に薄く打ち延ばされる金箔を、箔打紙とともに展示。打ち上がった金箔を紙から抜く「抜き仕事」と、手で行っていた箔打ちの様子も再現。



中央の金色のシートの厚さは0.1ミリメートル。金箔1枚の1000倍の厚さです。身近なものを1000倍の厚さにした模型と比べることで、金箔の薄さを体感できます。



金箔を積層した象徴的なコーナー「100枚の金箔」。



大正時代に導入された箔打機。上下運動する筒の太さが異なるものを2台備え付けます。奥に見える「おもしろ箔物館」では子どもだけでなく大人も楽しめます。